



市民創世会 石川 修 議員

北陸新幹線について

問 今後の鯖江駅の利便性向上策として、東口の設置は有効だと思うが、見解は。

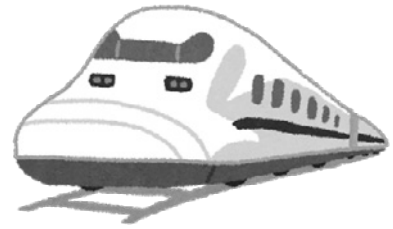
答 鯖江駅東口の設置は、駅舎利便性向上策の一つの可能性として十分考えられることであるが、大きな費用がかかることであり、通常の国の補助制度などを活用して実施するのであれば、鉄道事業者、また地元自治体の費用負担が発生する。そうすると、費用対効果を考慮する中で、判断が必要になってくると考える。

今後、並行在来線、福井鉄道福武線、つつじバスを中心とした、より利便性の高い交通ネットワークの構築を目指していくに当たり、ライドシェア等を活用した新たな移動手段の研究や北陸自動車道北鯖江パーキングエリアへのスマートインターチェンジの設置など、さまざまな施策を検討していく中で、鯖江駅東口の設置についても、駅舎利便性向上策の一つとして、財源確保の方策も含めて検討したいと考えている。

問 南越駅(仮称)の正式名称に「鯖江」を入れることについての見解は。

答 南越駅(仮称)に鯖江の名称を入れるための働きかけの必要性について、北陸新幹

線において新駅設置の先行事例である、黒部宇奈月温泉駅、新高岡駅、上越妙高駅については、駅設置市が複数の駅名候補をJRに要望し、金沢開業約1年9カ月前に、JRが候補の中から駅名を選定している。いずれの駅においても、駅名候補を複数選定するに当たり、検討組織が設置され議論が行われている。南越駅(仮称)の駅名選定に当たり、鯖江市として当市の発展や誘客にとって重要な役割を果たすため、鯖江の名称を入れるよう、南越駅設置促進期成同盟会が設置されているので、今後は、関係市町をメンバーとした正式な駅名検討の場を早期に設けるように求めていきたいと考えている。



サテライトオフィス事業について

問 ライフルビザスの会社概要は。

答 2016年4月本社開設、資本金4000万円、従業員数は約80名。親会社ライフルが運営している住宅不動産のポータルサイト、ライフルホームズの顧客サポートサービス、コールセンター業務、サイトのメンテナンスなどを行っている。

問 ライフルビザスが開設され1カ月経過した現状は。

答 2月1日鯖江市でオープンし、最初の1カ月は、新規採用社員を対象にサービスや業界の知識、ツールの利用などの研修をされており、3月1日から本格的に業務を開始されている。

問 慶応大学のサテライトオフィスCOTOB Aの取組状況は。

答 平成28年5月に河和田にサテライトオフィスCOTOB Aを開設、現在2名の研究員が常駐しており、3Dプリンターなどのデジタル技術を活用したものづくりなどを指導いただいている。ライメックスやゼンプラックというような新素材を取り入れた工芸品の開発なども行っている。

問 鯖江市で展開しているサテライトオフィスの全体雇用数は現在何名か。

答 サテライトオフィス全体の雇用数は合計42名。

問 サテライトオフィス事業誘致セミナーの現状は。

答 参加された企業にアンケートをとったところ、17社中12社がオフィスを検討する価値があるという答え。その大半が事前調査の段階で現実的にはお考えではないとのこと。ただオフィス開設には前向きな企業なので、本市の視察ツアーへ参加を促している。具体的に検討に入っている会社が4社あり、担当職員が企業訪問を行った。

会計年度任用職員制度について

問 (会計年度任用職員制度の) 条例案はいつごろ提出予定か。

答 組織として最適な任用、勤務形態のあり方を検討し、関係条例、規則の整備に入る。国の助言や県近隣市町の動向も見ながら9月議会に上程したい。



市民創世会 水津 達夫 議員